

光

埼玉県

四誠館

小学6年 平山 瑠佳

今年の四月、私たちは新型コロナウイルスの影響により緊急事態宣言が発令されている中、小学校生活最後の年を迎えました。

世の中が恐怖や不安に飲み込まれる中、バタバタと学校の休校や多くの習い事がリモートへの変更や休止となり、これまでの日常が驚くほどのスピードで一変しました。

剣道も約二ヶ月間の休止期間があり、その後も様々な制限のある中再開となりました。

再開に向けて休止期間中に手洗い場の設置工事をしていただいたり、練習内容変更のための打ち込みタイヤを作成していただいたり、換気用の業務用扇風機や消毒薬、体温計の準備など先生方やご父兄の方々のご協力をいただいたことにより、不安の多いコロナ禍においても安全に配慮した状態で稽古を再開することができるようになったと聞きました。

私はこのことを稽古が再開された時に知り衝撃を受けました。なぜなら私は、自分の環境の変化に慣れることで精一杯でいたのに、たくさんの方々が私たち館生のためにと一生懸命考え行動してくれていたからです。またその衝撃と同時に心がポカポカと温かい気持ちに包まれました。

気温が高い中でマスクとマウスシールドを併用しての練習が息苦しく今までより厳しく感じたり、仲間の試合が中止となったりと悲しく感じることもありますが、今元気にみんな稽古ができるということが、とても恵まれていることだと、この新型コロナウイルスの影響で強く思い知らされました。

剣道以外でも小学校の休校時には学習の遅れが出ないように課題を組んでいただいたり毎日先生方からのメッセージが配信され長い休校期間であっても常に身近に感じる事ができました。学習塾の授業もすぐに動画の配信やZOOMでの授業に切り替わり、全国の仲間とともに学習するという新しいスタイルで学習が止まることなく続けられ、今では一部の授業でも取り入れられています。また妹のピアノでもコンクールや発表会が中止となり目標がなくなってしまったことを先生が心配し、また自粛生活を練習時間が今まで以上にある！とポジティブにとらえ、ZOOMでの合同レッスンや弾き合い会などを企画していただいたおかげで私も妹と大好きな曲を連弾し楽しい思い出を作ることができました。

この自粛期間を経て私は「笑顔」について考えてみました。新型コロナウイルスにより毎日増え続ける人的被害、社会や経済への影響……。そのことによる人々の不満や恐怖。そのため世界中から笑顔がだんだんと減ってきていると感じます。しかし笑顔というものは連鎖していくものだと私は考えます。だれかの笑顔でその人の周りにいた人も笑顔になり、

またその周りにいる人の笑顔を生んでいく……。このような笑顔の連鎖は悲しみや苦しみに包まれた暗い世界に優しい光を差し込ませるものになると思います。私が周りの人たちからの優しさで温かい気持ちになったように、一人一人が思いやりの精神を持ち自分のためだけでなく周りの人たちに対し明るくキラキラと光のような優しさや笑顔を差しのべることができたなら、たくさんのありがとうの気持ちや笑顔が生まれ連鎖していくのではないかと思います。

当たり前だと思っていた今までの日常が、あるきっかけで一瞬にして大きく変化し、当り前の価値感がこんなにもあっけなくガラリと変わってしまうものと生まれて初めて経験しました。初めは戸惑い不安にもなりましたが、たくさんの方々の温かい気持ちや努力に触れ少しずつ変化に順応し以前のようにはいかなくても新しいスタイルで活気を少しずつ取り戻し、新たな日常を見つけ、受け入れ共存していく人間の強さを、未来への光を強く感じることができました。